

3. 学生支援の状況

アメリカの学生支援の状況の全体像を把握するのはきわめて難しい。上述のように連邦学生支援プログラムもきわめて多岐にわたるだけでなく、大学独自奨学金など様々な主体による学生支援プログラムがあるからである。以下では、いくつかの調査の結果から、学生支援の状況を明らかにする。

まず第1に、CollegeBoardの推計では、2007年度で、フルタイム換算の学士課程学生は、平均8,896ドルの学生支援を受けていた。この内訳は、4,656ドルが給付奨学金、3,650ドルが連邦貸与奨学金である。大学院生では、総額20,320ドルで、給付奨学金が6,948ドル、貸与奨学金が12,746ドルと推定されている。

表1 設置者別専攻別平均授業料状況（2008-09年度）

学生レベル、教育段階	公立		私立	
	州内学生	州外学生	非営利	営利
学士課程学生 Undergraduate	平均授業料			
4年制 4-year	\$8,070	\$14,378	\$20,112	\$15,521
2年制 2-year	2,830	6,118	9,987	13,073
2年未満 Less-than-2-year	5,016	5,505	8,980	12,604
大学院 Graduate2	7,361	14,924	14,422	15,224
専門職大学院 First-professional4				
指圧療法 Chiropractic (D.C. or D.C.M.)	†	†	24,785	†
歯科 Dentistry (D.D.S. or D.M.D.)	23,662	45,310	51,155	†
法学 Law (L.L.B. or J.D.)	16,042	28,034	32,790	25,217
医学 Medicine (M.D.)	22,430	43,203	41,539	†
眼科 Optometry (O.D.)	16,284	30,307	26,068	†
整形外科 Osteopathic Medicine (D.O.)	20,128	41,026	37,976	†
薬学 Pharmacy (Pharm.D.)	14,608	27,236	28,614	†
足治療 Podiatry (D.P.M., D.P. or Pod. D.)	28,942	31,822	26,666	†
神学 Theology (M.Div., M.H.L. B.D. or Orination)	†	†	12,353	†
獣医学 Veterinary Medicine (D.V.M.)	16,832	36,360	34,588	†
	Median tuition	授業料中位値		
学士課程学生 Undergraduate				
4年制 4-year	5,654	13,881	20,140	14,470
2年制 2-year	2,700	5,695	9,005	11,955
2年未満 Less-than-2-year	4,816	4,816	8,710	12,890
大学院 Graduate2	6,693	14,536	12,190	13,840
専門職大学院 First-professional4				
指圧療法 Chiropractic (D.C. or D.C.M.)	†	†	26,355	†
歯科 Dentistry (D.D.S. or D.M.D.)	24,062	45,906	52,103	†
法学 Law (L.L.B. or J.D.)	14,685	28,292	35,295	30,123
医学 Medicine (M.D.)	23,631	42,419	42,686	†
眼科 Optometry (O.D.)	15,132	28,854	29,170	†
整形外科 Osteopathic Medicine (D.O.)	20,449	41,982	38,985	†
薬学 Pharmacy (Pharm.D.)	14,093	28,258	28,114	†
足治療 Podiatry (D.P.M., D.P. or Pod. D.)	28,942	31,822	27,086	†
神学 Theology (M.Div., M.H.L. B.D. or Orination)	†	†	11,710	†
獣医学 Veterinary Medicine (D.V.M.)	16,217	37,308	38,156	†

(出典) Knapp et al. 2009.

また、全米教育統計局 (National Center for Education Statistics, NCES) は多くの調査を実施しているが、このうち学生支援の状況がわかるのは、中等後教育総合データシステム (IPEDS, Integrated Postsecondary Education Data System) と全米学生支援調査 (NPSAS,

National Postsecondary Student Aid Survey) の2つであり、前者は文部科学省「学校基本調査」、後者は日本学生支援機構「学生生活調査」にあたるものである。

はじめに中等後教育総合データシステム (IPEDS) の 2008 年度データからの推計を検討する。これによると、表 1 のように、2008 年度の平均授業料は公立 4 年制大学州内学生で 6,070 ドル、州外学生で 14,378 ドル、私立 4 年制大学で 20,112 ドル、公立 2 年制大学州内学生 2,830 ドル、州外学生、6,118 ドル、私立 2 年生大学で 9,987 ドルとなっている。公立 4 年制大学では州内学生と州外学生 (留学生も含む) では、2 倍以上の差がある。また、私立大学では州内学生と州外学生の授業料の差はないが、平均で 2 万ドルを超えている。ただし、これらはいずれも定価授業料 (sticker price, published price) であることに注意する必要がある。

また、学生に対する経済的支援に関しては、2008 年度の調査結果は 2009 年 10 月現在では公表されていないため、2003 年度の IPEDS 調査結果を見ると、学士課程学生の 75% が何らかの学生支援を受けている。特に私立 4 年制大学では 85% とほとんどの学生が支援を受けている。これに対して、公立 2 年制大学の受給率は 61% と低くなっている。

表 2 設置者別種別学生支援の受給率

	(%)				
	連邦学生支援	連邦給付奨学金	州・地方給付奨学金	大学独自奨学金	ローン
全学生	75.0	38.7	27.8	28.0	45.3
公立4年制	75.5	28.3	38.2	32.0	44.3
公立2年制	61.2	39.7	29.9	10.8	17.5
公立2年未満	60.4	45.8	12.8	5.6	22.8
私立非営利4年制	85.1	27.2	31.4	73.8	59.8
私立非営利2年制	79.9	50.5	30.4	31.6	46.9
私立非営利2年未満	76.1	61.2	16.5	8.5	33.5
私立営利4年制	79.8	52.2	10.6	11.2	73.6
私立営利2年制	85.6	61.3	11.2	4.5	69.5
私立営利2年未満	80.4	65.3	3.7	5.1	61.1

(出典) NCES, website, Financial Aid, Table 8.

(注) 原データは IPED と思われるが、記載がない。

表 3 設置者別種別学生支援の平均額

	連邦給付奨学金	州・地方給付奨学金	大学独自奨学金	ローン
全学生	\$2,908	\$2,329	\$5,824	\$4,482
公立4年制	3,048	2,622	3,388	3,998
公立2年制	2,711	1,236	1,225	2,727
公立2年未満	2,743	2,130	1,293	4,726
私立非営利4年制	3,463	3,059	9,360	4,991
私立非営利2年制	2,746	2,824	3,143	4,429
私立非営利2年未満	3,405	3,688	1,990	4,430
私立営利4年制	2,564	2,189	1,845	5,955
私立営利2年制	2,826	2,417	1,213	5,425
私立営利2年未満	2,776	2,239	709	4,284

(出典) NCES,website, Financial Aid, Table 8.

(注) 原データは IPED と思われるが、記載がない。

これを種別に見ると、連邦政府の学生支援を受けているのは私立2年制大学と営利大学に多くなっている。これに対して、公立大学の受給率は低い。ただし、公立2年制大学では約4割が受給されている。また、地方政府の学生支援に関しては、公立4年制大学、私立4年制大学、私立2年制大学、公立2年制大学の順となっている。大学独自奨学金 (institutional aids) は、私立4年制大学で74%と圧倒的に高いが、公立4年制大学と私立2年生大学でも約3分の1の学生が受給されている。ローンが多いのは、私立4年制大学で約6割、ついで私立2年制大学で47%、公立4年制大学で44%などとなっている。このように、設置者別と学生支援のタイプ別に明確な相違がみられる。なお、私立の2年制未満の大学と営利の2年制未満の大学はきわめて数が少ないため、注意が必要である。

平均受給額についても、表3のように、連邦政府および地方政府の学生支援は私立および公立4年制大学に多く、大学独自の学生支援は、私立4年制大学がきわめて多く、公立4年制大学と私立2年制大学と私立2年制大学がこれに次いでいる。

次の全米教育統計局のもう一つの学生支援に関する調査である学生財政支援調査 (NPSAS) の2008年度調査で学生支援の状況を確認する。表4のように、学部学生 (学士課程学生) のうち、何らかの学生支援を受けている学生は66%と約3分の2にのぼっている。このうち給付奨学金は52%と過半数の学生が受給している。ローンは39%と3分の1強となっている。また、ワークスタディは約7%などとなっている。

これを設置者別にみると、何らかの学生支援を受けている学生は、私立4年制博士非授与大学で87%、私立4年制博士授与大学で82%と高く、公立4年制大学では7割強となっている。これに対して公立2年制大学では約半数となっている。給付奨学金の受給状況についても、比率は下がるが同じような状況にある。また、ローンは、私立4年制大学で多く、次いで公立4

年制大学、公立2年制大学では約1割とかなり低くなっている。これらは先の IPEDS の結果とほぼ符合している。

所得階層別に見ると、2万ドル以下の低所得層の依存学生の91.0%は何らかの支援を受けている。しかし、10万ドル以上の高所得層でも64.9%が何らかの支援を受けている。給付奨学金についても、低所得層の88.4%が受けている。しかし、高所得層では45.2%と半数以下にとどまっている。ローンについては、低所得層で51.1%、高所得層で39.7%と差は小さい。さらに、プラス・ローンの場合には、低所得層4.2%に対して高所得層は10.8%と高所得層の方が多くなっている。このように所得階層別に支援の種類が異なっていることが特徴である。もともとそれぞれの支援はターゲットとする所得階層を別にしているの、それがこの調査結果にも表されていると言えよう。

表4 設置者別所得階層別種類別学生支援受給率(%)

	何らかの支援	給付奨学金	ローン	ワークスタディ	退役軍人	プラス・ローン
合計	65.6	51.7	38.5	7.4	2.1	3.8
全学士課程学生						
教育機関タイプ						
公立						
2年未満	54.1	44.5	17.8	#	†	0.5
2年制	47.6	39.6	13.2	3.3	2	0.2
4年制(博士課程なし)	70.2	52.5	43.4	7.3	2.4	3.9
4年制(博士課程あり)	71.9	53.1	47.8	8	2	6.9
私立非営利						
4年未満	79.6	59.8	43.9	2.9	1.2	4.8
4年制(博士課程なし)	87.3	76.2	61.2	23.2	2.5	8.4
4年制(博士課程あり)	81.7	70.7	56.5	23.2	1.3	8.7
私立営利						
2年未満	90.6	68.6	77.3	0.3	0.9	6.7
2年以上	98	70.9	95.8	2.5	2	4.7
複数の教育機関	68.9	51.3	44.7	7.7	2.8	5
通学パターン						
フルタイム・フルイヤー	79.5	64.4	52.9	13.5	2	7.2
パートタイム・パートイヤー	56.6	43.5	29.2	3.5	2.2	1.5
フルタイム・フルイヤー学士課程学生						
経済状況						
依存	77.1	62.1	49.4	15.3	0.7	9.6
独立	68.9	71.7	63.8	7.6	0.1	†
学生家計所得						
依存学生						
2万ドル以下	91	88.4	51.1	18	0.7	4.2
2-4万ドル未満	91.6	86.4	57.4	21.9	0.9	6.9
4-6万ドル未満	82	69.2	55.4	19.2	†	8.9
6-8万ドル未満	78.9	55.9	54.3	15.3	0.8	11.2
8-10万ドル未満	73.7	52.8	50.1	13.6	0.5	12.5
10万ドル以上	64.9	45.2	39.7	10.2	0.4	10.8
独立学生						
1万ドル未満	87.1	81.6	60.1	12.8	4.7	†
1-2万ドル未満	89.9	80.3	66.3	6.4	6.3	†
2-3万ドル未満	88.4	68.4	66.7	5.6	†	†
3-5万ドル未満	87.8	68.6	68.2	3.6	5.7	†
5万ドル以上	78.0	38	59.4	2.4	0.9	†

(出典) NCES 2009, Table 1.原データは NPSAS(2008). 以下同じ。

支援額の平均については、あまり大きな差がない。表5のように、何らかの援助では、低所得層 12,800 ドルに対して、高所得層は 13,000 ドルである。最も支援の平均額の高いのは所得が2万ドルから4万ドルの層の 13,700 ドルとなっている。給付奨学金については、低所得層ほど多く、2万ドル以下の低所得層では 8,600 ドルに対して、高所得層では 7,400 ドルとなっている。ローンに関しては逆に低所得層 6,400 ドルに対して、高所得層 8,200 ドルと高所得層ほど多い。またワークスタディは独立学生、パートタイム学生ほど多く、プラス・ローンは高所得層ほど多い。このように、受給率と同様、平均金額で見ても、それぞれの支援のターゲットに依拠していることがわかる。

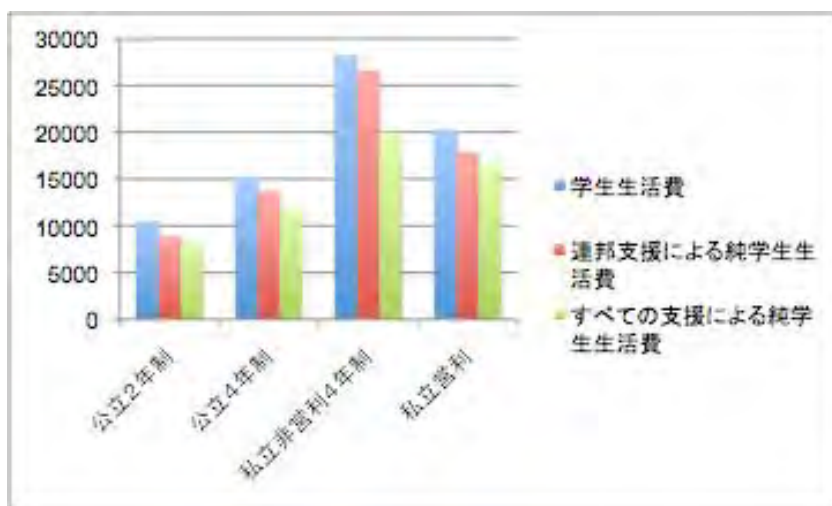
表 5 設置者別所得階層別種類別学生支援平均額

	何らかの支援	給付奨学金	ローン	ワークスタディ	退役軍人	プラス・ローン
合計	\$9,100	\$4,900	\$7,100	\$2,400	\$5,400	\$10,800
全学士課程学生						
教育機関タイプ						
公立						
2年未満	4,700	2,700	5,700	‡	‡	‡
2年制	3,400	2,200	4,100	3,000	4,500	4,800
4年制(博士課程なし)	8,000	4,300	6,300	2,500	5,200	8,000
4年制(博士課程あり)	10,100	5,600	6,800	2,500	5,600	10,000
私立非営利						
4年未満	7,800	4,000	7,000	2,000	‡	8,200
4年制(博士課程なし)	16,000	9,300	8,400	1,900	5,600	12,700
4年制(博士課程あり)	19,000	11,100	9,900	2,200	5,600	15,600
私立営利						
2年未満	8,500	3,100	6,500	‡	4,700	6,800
2年以上	11,400	3,200	8,500	3,500	7,600	9,900
複数の教育機関	9,000	4,400	6,800	2,200	6,100	9,900
通学パターン						
フルタイム・フルイヤー	12,700	7,100	8,000	2,300	6,600	11,400
パートタイム・パートイヤー	5,800	2,700	6,100	2,700	4,600	8,700
フルタイム・フルイヤー学士課程学生						
経済状況						
依存	13,100	7,800	7,600	2,200	4,700	11,400
独立	11,700	5,200	8,900	2,500	7,300	†
学生家計所得						
依存学生						
2万ドル以下	12,800	8,600	6,400	2,200	5,800	7,900
2-4万ドル未満	13,700	8,600	7,000	2,200	5,300	8,900
4-6万ドル未満	13,200	7,500	7,600	2,300	4,000	9,800
6-8万ドル未満	12,600	7,100	7,800	2,300	4,600	10,200
8-10万ドル未満	13,300	7,600	7,900	2,200	‡	11,200
10万ドル以上	13,000	7,400	8,200	2,300	4,200	14,000
独立学生						
1万ドル未満	12,400	6,200	8,500	2,400	6,900	†
1-2万ドル未満	11,500	4,900	8,600	2,700	7,100	†
2-3万ドル未満	11,600	5,100	9,100	2,500	7,300	†
3-5万ドル未満	11,000	3,800	9,200	2,300	8,300	†
5万ドル以上	11,000	4,600	10,300	2,200	7,200	†

(出典) NCES 2009.

また、全米教育統計局（NCES）では、学生生活費（Cost of Attendance）から、連邦教育税クレジットと税控除についてはじめて推計を行った。その結果は図7の通りである。教育減税はすべての支援による純学生生活費と連邦支援による純学生生活費の差で推計され、公立2年制大学で600ドル、公立4年制大学で1,800ドル、私立4年制大学で6,600ドル、営利大学で1,200ドルと推計できる。

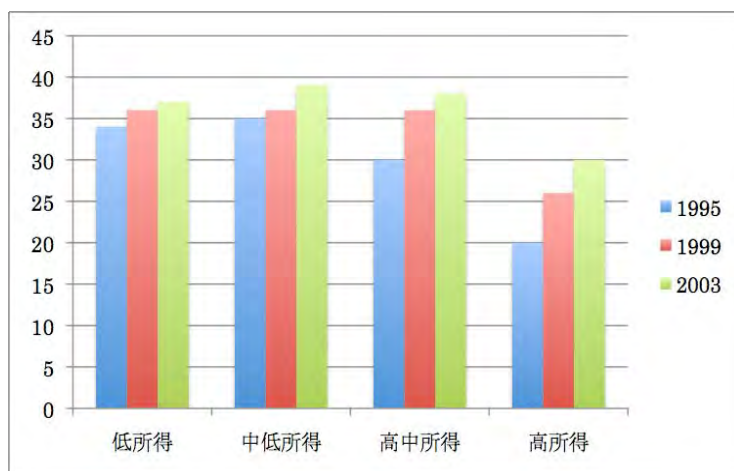
図7 学生生活費と連邦奨学金と教育減税



（出典）NCES 2006. P.xiii.

また、連邦学生支援のうち、スタッフォードローンの受給状況（依存学生）は、図8のように、すべての所得階層で増加しているが、低所得層でも3分の1以上の者が借り入れており、高所得層を除いて、所得階層による受給率に差が無くなってきている。それだけ、ローンが普及していることを示している。なお、所得層は4分位である。

図8 スタッフォードローンの借入状況（%）



（出典）NCES 2008, p. ix.